

♪「五十嵐 美穂 アコーディオン ソロサイタル」 ぶらり訪問記 ♪

2009年5月7日(木)19:00 開演

会 場 めぐろパーシモンホール(小ホール)

東急東横線「都立大学」駅より徒歩約7分

出演者：五十嵐 美穂(アコーディオン奏者)

入場料：前売り2.000円

楽しいリズム・序曲の魅力

■演奏者からは、リサイタルがあると案内状を頂くのですが、比較的近くに住んでいるのに都合が合わずこれまで聴きに行く機会がありませんでした。今回楽しみに足を運んでみました。

■ステージに飾られた生花(花かご)に合わせたようにさわやかな花柄のスカートで登場、1曲目は「旧友」、マーチの演奏でした。最初の曲ということで相当緊張したのでしょう細かいところで音が伸びきらず大変惜しい演奏でした。



■1曲終わった後、「第1部は、楽しいリズムと題して5つのリズム(マーチ、タンゴ、ブギ、ルンバ、ワルツ)を、第2部は、序曲を通して一人オーケストラと言われるアコーディオンの魅力を伝えたい」とのトークがあり2曲目の「オレガッパ」の演奏が始まりました。すでに呼吸も落ち着き自分の世界を取り戻していたのはさすがです。そして「ラムブギ」、4曲目の「マリネラ」は軽快なルンバのリズムで身体がつい動いてしまいます。曲の感じを良くつかんでいました。家に帰りインターネットで「マリネラ」を検索したら松島詩子さんの歌うマリネラを聴くことができました。1部の最後は「美しく青きドナウ」でワルツです。大変想いのこもった曲ですとのトークで、曲の出だしがとっても素敵で印象に残りました。8分ちょっとの長い曲でしたが丁寧な演奏でその集中力に感心しました。



写真は第2部での演奏スナップ

~~~~休憩~~~~

■第2部は明るいブルーのドレスに着替えて登場「軽騎兵序曲」の実に生き生きとした演奏で始めました。トークの中で、序曲は物語りを感じるの好きなのだと語っていました。2曲目は「詩人と農夫」3曲目は「ウイリアム、テル序曲」最後は「セビリアの理髪師」と続きます。音に集中しようと目をつむってみましたが、目を閉じて聴いたのではもったいないくらい表情も大変豊かで、“ここはこう弾きたい”との想いが良く伝わってきます。

■全体を通して、演奏は全て立奏で、しかも全曲暗譜でした。私などは、そのことだけでも真似できないなぁとショックを受けます。立奏は腹筋を使うので以前は序曲を1曲演奏すると息切れがしていたと言います。友人の勧めでヨガを始め、呼吸だけでなく姿勢やいろいろな部分の筋力をつけることに意識が向けられるのでヨガの効果を感じているとのことでした。

女性  
は一般  
的に身  
体が柔  
らかい  
分手首  
も柔ら  
かいた  
思うの  
ですが、  
音のつ



ながりが綺麗で曲が自然に流れているのは20年近くエレフーンを習っていたことで鍛えられたのだらうと思います。また、写真のように演奏中の豊かな表情が彼女のリサイタルの魅力さをさらに高めていたのではと思いました。(文：乙津)